

天沼中だより

令和3年3月24日
杉並区立天沼中学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/amanumachu/>

三密は避けても親密は大切に

校長 水野 英利

校庭の桜が子どもたちのこの一年をねぎらうように咲いています。新型コロナウイルス感染が終息を迎えることなく令和二年度がまもなく終わろうとしています。保護者の皆様にはこれまでの間、目まぐるしく変わる教育計画にも関わらず、多大なるご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。

緊急事態宣言が解除されても下げ止まり、リバウンド、変異ウイルスの拡大といっこうに明るい兆しが見えない中、それでも毎日感染防止のための取り組みをひたすら守り、生活する子どもたちを見ると、頭が下がる思いです。学校ではもはや常識となった三密（密閉、密集、密接）を避ける指導が主体となっていますが、一方で、あまりに過敏になると、学校ならではの本来培われるべき力が身につかないという心配があります。すでにその現象は現れており、稚拙さが抜けなかったり、自覚に薄かったりと数々の行事の中止や変更、集会や縦割り活動ができなかったことが学ぶべき、知るべき事の実現を不能にしています。三密の回避がその原因ならば、私たちは子どもたちのために、三密を避けながらも修復を図らなければなりません。そこで大切になるのは、体の距離は離しても心の距離は離さないということではないでしょうか。

会話や対話が難しくなっても、何ができるかを子どもたちが考えたり、学校側から代案を提示して皆で検討したり、また、リモートやオンラインによる顔の見えるつながりは、すべて心の距離の維持に他なりません。子どもたちの心の成長は、この心の距離の近づき方により変化すると思われます。

今子どもたちは、生きているこの場所が安全なのかと疑念を抱いています。それは、当たり前がなくなるという傷つきの体験が、安心という信頼のあった心の基礎を揺さぶっているからです。その動揺は自分一人で抑えられるものではないでしょう。ですから、この危機こそ、様々な工夫をしながら共に乗り越えようとするのがこの世代の子どもたちに求められる大切な役割だと思います。そのためにも体の距離が離れようとも、互いの心の距離を離さずにいれば、どんな困難も乗り越えてくれる。私たちはそう信じてこれからも親密さを育てる機会を提供していきます。ご家庭においてもリモートワークなどでお忙しいとは存じますが、心の交流ができる機会を大切にいただければ幸いです。

結びとなりましたが、1・2年生の保護者の皆様には、今後も続くと思われる感染予防を含めた学校の方針につきまして、引き続きご理解をいただきますようお願いいたします。また、3年生の保護者の皆様には、お子様のご卒業おめでとうございます。これまでの本校に対する多大なるご理解ご協力に対し感謝を申し上げますと共に、今後とも母校となります天沼中学校を末永くご支援くださいますようお願いいたします。ありがとうございました。



祝 * ご卒業 (文中敬称略)

卒業生の皆様、保護者の皆様、9年間の義務教育を終え、それぞれの未来にはばたく日が近づきました。ご卒業、おめでとうございます。

昨年度から、卒業証書筒をやめ、フォルダー式に変わりました。さわやかな青竹色の表紙です。末永く大切にしてください。



令和2年度 第72回卒業式

昨年度は、保護者の方は1名、在校生は出席はできず、ご来賓、地域の皆様はご参列いただけませんでした。在校生も参列しない卒業式となりましたが、今年度は、在校生は代表生徒が体育館に参列、教室では在校生全員がリモートで参加しました。

卒業生代表の言葉 3年 村上洸樹

在校生代表の言葉 2年 笠原海暖

表彰

17日、予行練習のあと、3年生関係の表彰が行われました。

優良卒業生 学習に対する意欲及び成果をものづくりをとおして発揮し、さらに卒業後の進路に目的をもっている生徒を対象として与えられる賞

3年

体育優良生徒 体育の授業やスポーツ、健康な体づくりに積極的に取り組み、他の模範となった生徒に与えられる賞

3年

杉並区中学校書初展学校代表生徒

3年 印南花音 深町南帆

2年 鈴木智一 小林叶佳

1年 加藤亜美 原田 拓

3年 田中健想 勝見彩葉 下屋愛蓮 原 健仁

2年 片岡明日香

1年 大島詩織 菅原千歳 菅原千尋 小尾瑞希

KOTODAMA マスター認定証

3年 矢部倫太郎

杉並区学校文化栄誉賞「税に関する標語」全国間税会総連合会入選による受賞

2年 庄原奈那 梅内 桜

1年 田尾田權



4月から天中同窓生

本来、都筑淳一同窓会会長様から、予行練習の後に同窓会入会についてご説明がある予定でしたが、代理で入会の説明を学校からさせていただきました。卒業生の皆さんは4月から天沼中の同窓生となります。ずっと、天沼中学校を支え、見守ってください。

また、時には学校に顔を見せてください。「社会人マナー」として、あらかじめ電話で訪問のお約束をしてからのご訪問をお願いします。

令和2年度 天沼レスキュー隊修了式

今年度は区の発足式、修了式、合同訓練等がすべて中止となりましたが、天沼中のレスキュー隊はたくさんの生徒が応募してくれました。訓練の機会もわずかでしたが、次年度につなげられる活動ができました。3年間レスキュー隊に所属した3年生には、盾も贈られました。代表して、隊長を務めた成田純実さんが壇上で受け取り、1、2年生に「来年度以降もぜひ頑張ってください」と、メッセージを伝えてくれました。

令和2年度レスキュー隊隊員

3年生

2年生

1年生

3年生は地域人として、これからも地域の防災に協力を。1、2年生は来年度も頑張ろう。



レスキュー隊の皆さんへ (区修了式に代えて)

新型コロナウイルスの拡大という未曾有の出来事は、全ての人々を不安にさせ、日常の生活を大きく変えました。みなさんの防災リーダーとしての活動も、これまでとは大きく異なり、十分にできなかったことは本当に残念です。しかし、こうした状況は、困っている人の気持ちを理解し、皆で協力して困難を乗り越えようとする貴重な体験となり、皆さんの将来にきっと役立つことと思います。これからいろいろなことに挑戦していきましょう。

教育長 白石 高士



全校で卒業を祝う会

表彰式の後、短時間で全校生徒が体育館に集まり、生徒会主催でお別れの会を行いました。歌も歌えない中でしたが、3年生からの「あいさつは天沼中の伝統としてつないで行ってほしい」というメッセージが、楽しい動画とともに発表されたり、3年生を送り出す激励のメッセージが在校生から贈られたり、和やかに心温まるエール交換の場になりました。



天沼レスキュー隊と私

1 年

小学校3年のことだった。夜中にウウッ、ウウッ、とサイレンの音が聞こえてきた。津波が来る時のような怖い音だ。ふと横を見ると寝ているはずの母がいない。(どうしたんだろう……。)布団の中でじっとしていたら玄関の鍵が開く音がした。母が慌ててリビングに入って来るやいなや、電話の受話器を挙げて110番した。

「あの、天沼中学校の火災警報器が火事だと言っているのですが……」

ことのてん末はこうだった。あの日は風が強かった。そして夜、学校に火災警報器が鳴った。万が一のことを考えて、母は消火栓のところにつけつけた。火事であれば、初期消火をしなければならないと思ったそう。ところが町内の人は誰も集まっていない。母以外には、中学生か高校生ぐらいの男の子が二人、火元を探そうとして学校の周りを走り回っていたそう。しかし火元は見つからず、中にも入れないので、母に対して「119番通報してください。」とはっきりした声で指示してきたのだという。そして母はそれに従ったということだった。

翌日、それが誤作動であったことが分かった。私はあのサイレンが何でもないことが分かってほっとした。母は、「あの子どもたちの動き、役割分担を意識した指示の出し方、あれはレスキュー隊かレスキュー隊OBに違いない。」ととても感心していた。そして私に、「あなたも天沼中学校に入ったら、レスキュー隊に入ったら？」と勧めてきた。私は、(何かたいへんそうだなあ。)と思ったが、思えばこれがレスキュー隊に興味を持った最初だった。

私は小学校の低学年のときから、町内会の防災訓練には何度も参加してきた。そのころはただ何となく、牛に引かれて善光寺参りという感じで親につれられるままに参加していただけだが、学年が上がるにつれて、防災訓練に参加する意識も変わってきた。特にレスキュー隊の存在を知ってからは、自分が人を助けるためには、まず自分の身は自分で守る＝自助という考えがなければならぬと気付くようになり、そのために日ごろから訓練に参加することが大事だと思うようになった。

その上で、大地震が東京で起きて火災が発生した場合、すぐには消防車が来ることができず、初期消火は地域の住民でしなければならないらしいことも分かってきた。本当にそうなのだろうか。もし私たちの天沼で火事が起きて消防車が来なかったら、大きな火事になるのではないかと怖くなった。このような現実を知るようになってから、どこの場所にスタンドパイプがあり、消火栓があるのかということも、自然と意識するようになっていった。

また、鴨長明の『方丈記』も何度も読んだ。その中に記されている安元の大火は、まさに火災旋風のことであり、近代の東京でも関東大震災と東京大空襲で二度起こっている。その怖さを忘れないようにするために、この古典は大切だと思った。ちなみに我が家では、曾祖父や祖父が神田でこれらの大惨事に遭遇しながらも、特に関東大震災ではバケツリレーにより、火事から家屋を守ったことが家訓として語り継がれている。

あの誤作動の後、しばらくしてもう一度、同じことが起こった。そのときは父と二人で確認に行ったのだが、やはり中学生か高校生ぐらいの男の子も来ていた。私はこのとき思った。こうして何かあれば、何とかしようと集まって来る。こうした日頃の心意気が大事なのだ。このとき、私も中学生になったらレスキュー隊に入ろうと思うようになったのではないかなと思う。誤作動は良くなかったかもしれないが、地域住民としての防災意識の大切さを実感できる出来事だったと思っている。



区合同震災訓練

3年生 3月18日(木)
みんなで、バスで、一緒に、出掛けた！
1日限りの修学旅行
“ハ景島シーパラダイス”

昨年の3月、スキー移動教室が直前で中止、7月の修学旅行を3月に延期して、出発1週間前にそれも中止となった学年でした。学年の先生方は生徒に意見を聞き、中止の決定から3日間ですべての準備を整え、せめてもの日帰り修学旅行を企画、実施しました。お天気は生徒を応援してくれるかのように、春の温かい日差しで、海も空もとても美しい一日でした。



健康チェックと手の消毒をしてバスに乗車



5人以下の班で行動



屋外で密にならずにお弁当



この1年間、なんとか修学旅行に3年生を連れて行きたいと、学校は何度も検討を重ねました。修学旅行の延期、感染予防の工夫のため、費用を何度も計算し直し、旅行業者との折衝を重ね続けてきました。最終的に中止が決まって日帰り修学旅行の実施を決めた後も、補助金の申請や旅行自体のキャンセル料についての区との連絡、日帰り旅行での感染対策などと、短い時間で多くの手間がかかっています。最後の音楽発表会も、緊急事態宣言延長が決定するまで何とか実施できるのではないかと実施できる工夫を模索し続けてきましたが、それもかなわなくなりました。

修学旅行に向けての係の取り組みや事前学習、音楽発表会に向けての実行委員会や指揮者伴奏者の練習など、取り組む3年生の生徒の表情は楽しそうで意欲にあふれていました。行事のために日々の授業があるのではない、日々の授業の充実のために行事があるのだという考え方に十分に伝えてくれた、3年生の姿でした。



音楽発表会での感染予防の工夫をして準備する実行委員会

3月17日(月)
3年生の話を聞く会



< 1, 2年生が一人一人書いたお祝いメッセージ >

3年生から2年生へ、「受験」の話を中心に3年生という1年間をどう生活してきたか、話を聞く会を開きました。1年間、数少なかった先輩から後輩に伝えるという時間をこの日実現できたことはとても有意義でした。

勉強方法、進路というものの考え方、「内申」というものは知っていたけれど先輩からじかに聞くとまた違って聞こえました。「進路」は自分で考えて自分で決めていかないといけないんだ、という思いを2年生は新たにしました。



3月4日（金） オリンピック 高谷惣亮選手来校



今年度のオリンピック・パラリンピック教育は、コロナウイルス感染拡大の影響でなかなか特別な授業を実現することができませんでした。3月4日、卒業生の保護者であるトレーナー、コーチである沼田幹雄さん（国立スポーツ科学センター）のご紹介で、北京とリオデジャネイロ2回のオリンピックに出場してきたオリンピックの高谷選手をお招きすることができました。緊急事態宣言中だったこともあり、広い体育館では3年生だけが、そして、リモートで1、2年生の教室につないで、行うことにしました。



体育館では、沼田さんがインタビューをする形で、お二人でトークを繰り広げていただきました。3年生からたくさん質問が出て、その一つ一つに丁寧に楽しく答えていただきました。スイーツが好きだったり、ゲーマーだったり、生徒の皆さんがとても身近に感じることで、大いに盛り上がりました。選手のユニフォームを貸してもらった生徒代表がタックルをかけさせてもらったり、軽く持ち上げられたり、目の前で見た生徒はみんなびっくりしていました。

終了後、1、2年生の教室を回ってクラスの写真に入ったり、サインに応じてくださったり、親しみやすい人柄に、レスリングファン、高谷選手ファンが一気に増えたようでした。



【生徒の手紙から】

すてきな講演会をありがとうございました。特にレスリングに必要なのは、「好奇心」「意欲」「可能性」の三つだというお話が印象的でした。私はレスリングでないものでも同じように言えると思いました。私もその三つを大切にしていこうと思います。応援しています。（1年女子）

ぼくは今日のお話を聞いてレスリングにはもともと興味があったけどもっと気になりました。ぼくはローリングが一番好きです。高谷選手からサインをもらえてうれしかったです。3大会連続出場、見たいです。（1年男子）

タックルさせてくれてありがとうございました。今までの人生の中で最高の気分でした。オリンピック開催できるか分からないですけど、メダルをとってまた天沼中に来てください。いつか私も高谷選手に恩返ししたいと思います。（1年男子）

講演を聞いて、1回の試合で何人もの相手がいるのに、2回もオリンピックに出たり、10連覇しているのがすごいと思いました。私も最後まであきらめないで挑戦しようと思いました。（2年女子）

高谷選手！超かっよかったです。！！僕は少し高谷選手と関わりのある人から高谷選手にことを聞いたことがありました。実際学校に来てくれて驚きましたし、もっと長い時間話を聞きたかったです。オリンピック、必ず家族で応援します！！（2年男子）

アスリートとして尊敬できるところが多々ありました。努力を継続するところや勝ち続けることは本当にすごいと思いました。自分もラグビー選手になりたいと思っていますが、「好奇心」「可能性」「意欲」を持ち続けてこれからに役立てていきたいです。（3年男子）

高谷選手、沼田さん、お二人の話は面白く、聞いていてとても楽しかったです。私はあまり運動が得意ではないので、最初は乗り気ではなかったのですが、運動以外にも役立つお話をたくさん聞けました。継続して努力できる高谷選手はとてもすごいと思いました。（3年女子）

1年生 3月12日(金) 職業人ワークショップ



【お招きしたゲスト】

テンダーラビング保育園園長	河瀬千帆様
イナズマカフェオーナー	花房俊幸様
パティスリーアンファミユオーナーシェフ	高木充紘様
エルム動物病院 院長	蟹江健様
杉並区地域包括支援センターケア 24 清水	社会福祉士
多島和美様	
アパレル販売セルヴァンオーナー	北村由紀子様
J A 東京中央 志賀 貴様	吉田知弘様
美容室ノースイースト荻窪店代表	大森 潤様
天沼中学校用務	渡具知祐子さん

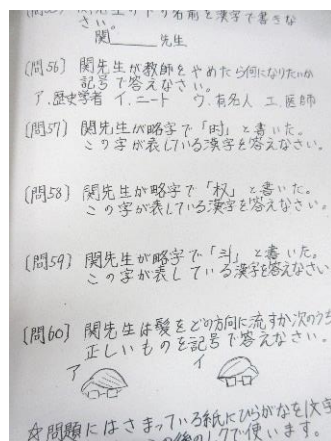
1年生は、地域で活躍される社会人の方をお招きしての職業人ワークショップで、「働く」ことのたいへんさ、やりがいなど、直接お話を聞きました。次年度の職場体験への意欲と心構えができました。

1年生 3月15日(月) 自主企画/学年レク

コロナ禍で、なかなか自分たちが行事をつくるという取組みができなかった1年間でしたが、1年

生では学級委員を中心に、自分たちの手で作り上げる行事を考えました。校外に出かけることも一度もなかったのですが、まずは校内で交流を深

めることのできる、自主的な学年レクの企画を立てました。先生方にアンケートをとって作成した「天中クイズ」や、「絵しりとり」「ジェスチャーゲーム」など盛りだくさんの内容を、先生の手を借りずに自分たちで盛り上げました。



2年生 3月22日(月) 校外学習/東京まち歩き

2年生は、スキー移動教室が中止になったことで、自分たちが日帰りで行きたいところ、やりたいことをプレゼンテーションし、この日実現することになりました。行先は「東京」。スカイツリーとすみだ水族館とその他の東京名所1箇所を訪問しました。クラスを解体し、話したことのない人とグループを組み、という方法も、困難を乗り越えて成長したい、という学級委員会提案のもの。都内でコースを決めて企画し、電車の乗り替えも予習し、時間どおりにチェックポイントを回るといふ、修学旅行に向けての絶好の練習になりました。



まずは荻窪駅チェック！携帯電話とカメラとフリー切符を配ってもらって出発！



赤坂日枝神社、築地本願寺、迎賓館、武道館などさまざまな場所へ。



ソラマチのタペテラスが昼のチェックポイント。全員無事通過。



ほぼ予定どおり、荻窪駅に帰着。少し雨がばらついてきましたが、1日お天気がもって良かった！明日は決算報告もしっかり！



学芸発表会展示の部 3月15日～19日

家庭科

技術科

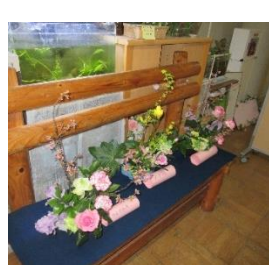


- 家庭科1 年 サスティナブルライフについて調べ学習 / 色、模様を自分で選んで作った刺し子の巾着
 2 年 世界で一つだけのT シャツ / 将来の理想の家の間取り図をタブレットP C で作成
 3 年 縫いぐるみ (2 年次制作) / 幼稚園児に読み聞かせるための触れる布絵本
 技術科1 年 木材で作った世界で一つだけのペン立て
 2 年 タブレットを使ったC A D (設計ソフト) による木製品の設計図
 3 年 金属のデザインプレートによるキーホルダー

美術科



- 美術 1 年 感情や味覚を形や色で構成した平面構成 / 自分らしさをテーマにした木彫
 2 年 「自分が興味関心のあること」をテーマにした一版多色刷り版画 / 「自分を〇〇してくれる言葉」透かし彫り
 3 年 自我像 (自らの内面を見つめて描いた絵) と社会課題をテーマにしたアルバムの表紙絵



レスキュー隊
雑誌部
華道部



生徒は主に美術、技術家庭の授業でそれぞれ鑑賞し、感想を書きました。保護者の皆様には、3日間、放課後の50分ずつという限られた時間でしたが、100人近い方々にご覧いただきました。ありがとうございました。